

Racing Topics

★中央競馬ニュース 文・谷川善久★

●コパノリッキーがフェブラリーS連覇も故障

2月22日(日)の1回東京8日・第11レースとしておこなわれたフェブラリーS(GⅠ)ではコパノリッキー(牡5歳／栗東・村山明厩舎)が勝利、同レース史上初となる連覇を達成しました。なおコパノリッキーはレース中に左橈骨遠位端骨折を発症していたことが判明しています。3月4日(水)に栗東トレーニング・センターにおいて手術がおこなわれる予定で、今後については未定です。

●三浦皇成騎手がJRA通算500勝を達成

2月21日(土)の1回東京7日・第12レースではサトノアルバトロスが1着となり、同馬に騎乗した三浦皇成騎手(美浦・鹿戸雄一厩舎)は、史上87人目、現役では30人目となるJRA通算500勝(5755戦目)を達成しました。

●久保田貴士調教師がJRA通算300勝を達成

2月21日(土)の1回東京7日・第6レースではシンボリタピットが1着となり、同馬を管理する久保田貴士調教師(美浦)は、現役72人目となるJRA通算300勝(2765戦目)を達成しました。

●調教師8名と梶晃啓騎手、中館英二騎手が引退

2月28日(土)付で、美浦では大久保洋吉、鈴木康弘、畠山重則、栗東では梅内忍、梅田康雄、小野幸治、境直行、白井寿昭、以上8名の調教師と、梶晃啓(美浦・田村康仁厩舎)、中館英二(美浦・フリー)の両騎手が引退しました。

●7名の調教師が新規開業

2015年3月1日(日)付で、美浦では池上昌和、竹内正洋、中館英二、栗東では池添学、奥村豊、西村真幸、松下武士、以上計7名の調教師が新規開業しました。

●ズズカマンボが死亡

2月20日(金)、種牡馬ズズカマンボ(牡14歳)が心不全のため北海道新ひだか町のアロースタッドで死亡しました。同馬は2005年の天皇賞(春)(GⅠ)を勝つなどJRA通算19戦4勝の成績を残して引退。種牡馬としては優駿牝馬(オークス/GⅠ)などの勝ち馬メイショウウマンボの父として知られています。

●後藤浩輝騎手が逝去

後藤浩輝騎手(美浦・フリー/JRA通算成績12949戦1447勝)が自宅で逝去されました。享年40歳でした。

★地方競馬ニュース 文・宇田川淳★

●ハッピースプリント(大井)はフェブラリーSで11着

フェブラリーS(GⅠ、2月22日、東京)には2頭の地方在籍馬が挑戦しましたが、ともに後方のままハッピースプリント(大井)が11着、サトノタイガー(浦和)は最下位の16着に終わっています。また、同日に行われた3歳馬によるダート1600mのオープン特別、ヒヤシソスSには、2頭の地方在籍馬がJRA認定馬の資格で出走、逃げたオウマタイム(船橋)が10着、パーティメーカー(浦和)は14着でした。

●ダイリンザンが飛燕賞を制覇、各地の主要3歳重賞

飛燕賞(2月22日、佐賀、1800m)は、2番手から直線入口で先頭に立った3番人気のダイリンザン(牡、父ヴァーミリアン)が優勝。単勝1.9倍で断然人気のソウルケンシは、出遅れから好位に取り付いたものの、伸びを欠いて4着に敗れています。

●連覇を狙うワイルドフラッパー、3月4日のエンプレス杯

第61回エンプレス杯(JpnⅡ、3月4日、川崎、2100m)は、昨年の覇者ワイルドフラッパーが中心、以下アクティビューティ、アムールブリエ、ケイティバローズまでが争覇圏内と考えられます。

★海外競馬ニュース 文・石川ワタル★

●オーストラリア年度代表馬ランカンルピーが今年初戦を快勝

今年のグローバルスプリントチャレンジ第1戦のブラックキャビアライトニング(豪G1、直線芝1000m)は2月21日、メルボルン郊外のフレミントン競馬場で行われ、3か月半の休み明けで2番人気だった13/14年の豪年度代表馬ランカンルピー(駄5歳、父リダウツヨイス)が快勝しました。好位から鋭く抜け出して2着のブレイズンボニーに2馬身3/4の差をつけ、通算21戦11勝で5つ目のG1勝ち。良馬場の勝ちタイムは56秒29。勝利騎手C.ニューアット。

●シンガポール最高賞金レースはアメリカのパランダが優勝

第1回シンガポールC(ローカルG1、芝1800m)は2月22日、シンガポールのクランジ競馬場で行われ、アメリカからの遠征馬パランダ(牡6歳、父イングリッシュチャンネル)が2番手から抜け出して1番人気に応えました。G2など米重賞4勝を含め、これで30戦12勝。勝利騎手C.スマヨン。総賞金305万シンガポールドル(約2億6800万円)は、シンガポール航空国際Cをわずかに上回って国内最高額です。